

2015年6月12日

中国事情研究部会 2015年第1回研究会報告

報告者:中国事情研究部会 山本忠士

2014年度第1回の中国事情研究部会について、以下ご報告いたします。

開催日時: 2015年5月30日 午後2時~4時30分

テーマ: 「台湾の現状と課題—総統選挙、中台関係を中心として」

場所: 日本大学通信教育部市ヶ谷キャンパス 1号館5階会議室

参加者: 10名

<主な内容>

<概要>

今回の研究会は、元日本大学大学院総合社会情報研究科教授の荘光茂樹先生を講師にお迎えして、台湾の現状と課題について、特に来年行われる総統選挙をめぐる動きを中心に報告をしていただいた。

まず、2016年1月16日に行われるが、第14期の総統選挙について、各政党の総統候補者の動向について、現在の馬英九総統の所属する国民党は、5月30日現在、後任候補が未定であること(7月15日に発表の予定)。これは党内の派閥分立の為に、有力候補者の朱立倫(党主席)、王金平(立法院長)は党内候補者に立候補していない。現在の党内立候補者は洪秀柱(立法院副委員長)、楊志良(前衛生署長)で、党内立候補第1次選考(15000名の党員推薦)、2次選考で政見発表と民意調査が行われる。国民党としては選挙に勝利するために、知名度掲示経験の豊かな朱立倫、王金平、呉敦義(副総統)のなかから党指名で立候補者にするべく調整がされているようである。

有力候補の一人である洪秀柱(女性)は文化大学法学部卒、アメリカミソリ東北大学教育学修士で、中学教員を経て1期から8期まで立法院員、立法院副院長、国民党副主席を経験している。

一方、野党の民進党は、蔡英文を立候補者として推薦している。蔡氏は台湾大法学部卒で、アメリカコーネル大学法学修士、イギリスロンドン大学政治経済学院法学博士。政治大学教授、2004年に民進党に入党し、立法委員となり、12期、13期、15期の民進党主席。

このほかにも、現在無党派の施明德(元民進党主席)や宋楚瑜(親国民党主席)党も立候補が取りざたされている。

最近の中台関係で注目されたのは、2014年3月に中台の「海峡兩岸服務貿易協議案」に対する学生たちの「太陽花(ヒマワリ)運動」によって立法院、行政院が占拠されたことを契機に馬英九は国民党主席を辞任。朱立倫が国民党主席に就任。

また、3月には中国の習近平が「4つの対台湾堅持不動の基本政策」として、①兩岸の平和発展、②共同政治基盤の確定、③兩岸同胞福祉の確保、④民族復興の実現、という4つの対台湾政策を発表した。

台湾は、今後の中台関係に大きな影響を与える、来年1月の総統選挙をめぐって熱い選挙のシーズンを迎えることになる。(文責在記者)

研究会終了後は、近くのアルカディア市谷(私学会館)のレストランの場所を移して懇親会を開き、会員相互の親睦を深めた。



